

平成 25 年 8 月 13 日

# 南 の 風 4 2

南部ミニバスケットボール連盟  
会 長 藤原 敬一

第34回マリンボールカップの結果を書きます。

《男子》

Aゾーン 優勝 大砂土クラブ（埼玉）      Bゾーン 優勝 六ッ川クラブ（横浜南部）  
準優勝 鶴久保MBC（横須賀）      準優勝 榎が丘ファイターズ（横浜北部）  
Cゾーン 優勝 南部選抜（横浜南部）  
準優勝 鶴ヶ峰クラブ（横浜中部）

《女子》

Aゾーン 優勝 柿生フィリーズ（川崎）      Bゾーン 優勝 ひかりが丘少女バスケ部（横浜中部）  
準優勝 ラビッツクラブ（横浜北部）      準優勝 永田台ビーバース（横浜南部）  
Cゾーン 優勝 南部選抜（横浜南部）  
準優勝 横須賀富士見クラブ（横須賀）

以上です。（くわしい結果は、横浜南部連盟のホームページをご覧ください。）

優勝したチームの皆さんおめでとうございます。また参加され、素晴らしいゲームを展開してくれました各チームの選手のみなさん、ありがとうございました。今後の各県での大会のよい経験になれば幸いです。また、各チームのスタッフ並びに保護者会の皆様、お疲れ様でした。

また、静岡県からの派遣審判を始め、各都県の派遣審判の方、県内及び横浜連盟の審判の方、お忙しい中、本当にありがとうございました。皆様の審判活動に対する熱い思いが、それぞれのゲームをしっかり支えてくださいました。さらに、ゲーム後の反省会では、当該審判の方のみならず、たくさんの方の熱心な討議が展開され、有意義な時間を共有することができました。審判活動のよい交流ができました。今後ともよろしくお願い致します。

最後になりますが、南部連盟の役員並びに保護者会の皆様、計画から諸準備、後片付けまで本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

さて振り返って見ますと、今年は男女とも、それぞれのチームの特徴がよく出ていました。

オフェンスでは、高さを生かしてポストプレイを中心に攻めるチームや、トランジションゲームを主体に攻めを展開するチーム、そして2対2のプレイからディフェンスを崩して攻めるチームなど多種多彩でした。チームの選手の特徴を踏まえた上での、タクティクスに工夫が見られました。一方ディフェンスでは、1対1（5対5の中でも）の強化が進んでいるチームが目につきました。男子の大砂土チーム、榎が丘チーム、女子では、柿生チーム、中結城チームです。スタンス、ディスタンス、フットワーク、ハンドワーク、ビジョンといった基本技術がしっかりしていました。この4チームのゲームを観ると、どうディフェンスに取り組んできたのかがよくわかります。子どもたち（選手）にディフェンスの重要性や楽しさを教えることは難しいことですが、成功した時や失点を最少に抑えた時などに実感として、あるいは達成感として残るのではないのでしょうか。